

日本皮膚科学会 東日本大震災支援
ボランティア診療支援 活動記録
第八陣

日程； 2011年6月8日（水）～6月11日（土）

参加者；安齋 眞一 （日本医科大学）
高山 かおる （東京医科歯科大学）
米田 明弘 （札幌医科大学）
豊田 知子 （お肌のクリニック、秋田県）
水芦 政人 （東北大学、6月9日）
柿崎 彩 （東北大学、6月9日）
福士 佐和子 （東北大学、6月10日）
李 娜（りな） （東北大学、6月10日）

行動； 6月8日 仙台入り

6月9日

6時45分 機材積み込み（東北大学病院）

7時 ホテルより出発。

仙台市～利府 IC～三陸自動車道路～登米東和 IC～国道 389 号線～南三陸町

9時50分 公立志津川病院仮診療所に到着
（南三陸町ベイサイドアリーナ内）

◇ 訪問看護ステーション担当 WOC 看護師と打ち合わせ。二班に分かれ、担当看護師・理学療法士と共に訪問診療。

（1班：安齋、米田、柿崎、2班：高山、豊田、水芦）

皮膚科診療； 0名

褥瘡診療； 5名

◇ 訪問看護ステーションは公立志津川病院に併設されていたが、津波で被災。日本皮膚科学会ボランティア医師により訪問看護業務の医療支援を行った。褥創加療の経過良好であり、上皮化している患者が多くなっている。以降は皮膚科診療医にコンサルテーションしつつ、在宅医療を継続予定。



(仮設公立志津川病院にて)

11時30分～ 移動開始。南三陸町視察～途中で昼食。
南三陸町～国道45号線～桃生津山IC～三陸自動車道路～桃生豊里IC

13時20分～ 石巻市立桃生小学校避難所にて診療。

◇ 2週間に一度巡回診療を施行した。以降は最寄りの登米市立病院もしくは石巻市内の皮膚科医を受診頂くよう案内を手渡した。

皮膚科診療； 2名

褥瘡診療； 0名

(避難者総数；22名、6月6日20時取りまとめ)

13時40分～ 移動

桃生豊里IC～三陸自動車道路～河南IC～国道108号線

14時10分 石巻市遊楽館避難所（河南地区）で診療開始。

皮膚科診療； 10名

褥瘡診療； 2名 (総計12名)

(避難者総数；73名、6月6日20時取りまとめ)

- ◇ 遊楽館避難所では、要介護者など訪問看護等の介護医療のサポートを要する方々を集めて、地域の訪問看護サービスが復興するまでの支援をしている。日本皮膚科学会のボランティア医療チームは、皮膚科診療・褥創管理を中心として支援にあたっている。
- ◇ ここでも褥瘡の改善により処置を要する患者が減少し、慢性皮膚疾患患者の比率が増えている。この日は石巻市立病院皮膚科・菅原正幸医師が合流し、以降の診療を継続する申し送りを行った。



15時 移動開始。

国道 108 号線～県道 43 号線～矢本 IC～三陸自動車道路～仙台東 IC～仙台市内

16時 10分 東北大学病院到着。打ち合わせ。

16時 40分 解散。

6月 10日

6時 45分 機材積み込み（東北大学病院）

7時 00分 ホテルより出発。

仙台東 IC～三陸自動車道路～矢本 IC～県道 45・398 号線～石巻市立病院前～

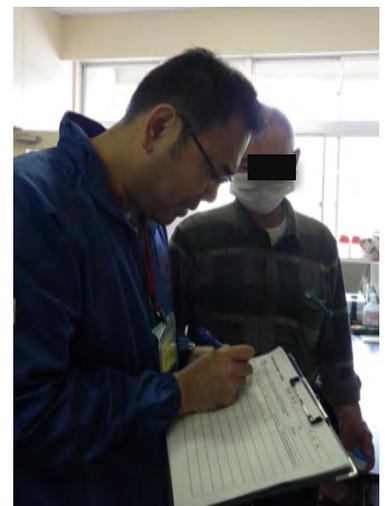
9時 30分 石巻市立鹿妻小学校避難所（湊地区）で診療開始。

皮膚科診療； 5名

褥創診療； 0名 （総計 5名）

（避難者総数；215名、6月 6日 20時取りまとめ）

- ◇ 被災した石巻市立病院を視察しつつ移動。鹿妻小学校付近の湊地区は、石巻漁港に近く、津波の被害を大きく受けた地域である。
- ◇ ボランティア診療期間中に 石巻市内で再開が確認された皮膚科医院の案内を渡し、以降は保険診療に引き継ぐこととした。



10時10分 移動開始。
県道240号線～県道2号線～牡鹿半島

11時00分 鮎川おしか清心苑（鮎川地区）で診療開始。
皮膚科診療； 2名
褥創診療； 0名 （総計2名）

- ◇ 清心苑では、震災後の長時間停電を契機に褥創発症もしくは悪化に至った高齢者を中心に診察。ボランティア診療以降は石巻市立雄鹿病院を中心に診療継続される。



12時 女川町へ移動開始。車中で昼食。

13時 女川町立病院到着・視察

13時30分 女川町総合体育館避難所で診療開始。

皮膚科診療； 31名

褥創診療； 0名 （総計31名）

（避難者総数；686名、5月25日8時取りまとめ）

- ◇ 女川町立病院での診療も近々再開される予定である。それまでに必要な薬剤をできるだけ多く渡して頂いた。必要に応じて、近隣市の石巻市内で再開が確認された皮膚科医院の案内を渡し、以降は保険診療を受けて頂くこととした。





(巡回二日目の参加の先生方。左から福士、李、高山。豊田、安齋、米田先生)

16時	女川町出発。
18時40分	ホテル着。機材は東北大学へ搬送。
20時00分	報告会。意見交換。

6月11日 各自帰途へ。

「日本皮膚科学会によるボランティア皮膚科医師派遣・診療支援を終えて」
今回の第8陣の業務を持って、8週間に渡った日本皮膚科学会後援によるボランティア皮膚科医師派遣・被災地巡廻診療は完了します。6月11日で地震発生からちょうど3ヶ月が経過しました。この3ヶ月の間に被災した多くの地元皮膚科医療機関も徐々に再開し、各地域で保険診療の体制を整えつつあります。避難所の縮小傾向と共に日中は作業に出る避難所生活者も多くなり、巡回バスなどの交通網も整いつつあります。まだ復興への道は始まったばかりですが、ボランティア皮膚科医師たちによる診療支援は、地域医療再興への橋渡しに大いに活かされたと思います。被災地支援の為に、悪路での長時間移動を厭わずに遠方より参加頂いた総勢32名の先生方と、派遣に当たり視察と陣中見舞いに来て頂き今回の派遣計画を導いて下さった自治医科大医学大槻マミ太郎先生と日本大学照井正先生に深謝いたします。

(文責；東北大学 山崎研志)